

【テーマを設定する】

近隣には日本全国産の木が生い茂った公園があり、定期的にバスでその公園に向かい探索活動を行っている。またさらに園周辺の公園にはそれぞれ木が植えられ、四季折々の変化を見ることができ、秋にはどんぐりを集めたりと様々な木の実を見つけて楽しむ姿があった。

日本は国土の約7割(約67%～70%)が森林で覆われており、フィンランドに次いでOECD加盟国中トップクラスの森林率を誇る「森林大国」であるにも関わらず、成長した人工林の伐採・利用が進まず、下草が育たない、土砂災害や火災のリスクが高まるなどの問題があることを知り、東京都の多摩地区にもたくさんの森林があるため、木への興味関心が深まるようテーマとして設定する。

【活動スケジュール】

◆5歳児◆

- 5月 公園にはどんな種類の木があるの？
- 10月～11月 木や葉などを観察しよう
- 12月 かんな節プール・木端材工作
- 2月 木でできたおもちゃであそぼう～東京おもちゃ美術館～
東京の木で看板を作ろう

活動①公園にはどんな種類の木があるの？ ～5歳児～

●問いを考える

・日頃から戸外遊びで利用している公園で、子どもたちが「いろいろな種類の木がある」「葉っぱの形が違う」「どんぐりが落ちている木はどれだろう」など、木や葉に興味を示す姿が見られた。そこで、「公園にはどんな種類の木があるのだろう」「木によって葉っぱや幹にはどんな違いがあるのだろう」という問いをもとに活動する。

●環境をデザインする

- ・公園のマップを作成する
- ・様々な種類の木の特徴を添えた手作り図鑑の作成
- ・近隣の中で自然(木)の多い公園に行く機会を作る

●探究活動を実践する

- ・公園内にある様々な木について興味をもって調べられるよう公園マップを作成し、木の写真や葉の形、幹の特徴などをまとめた手作り図鑑を準備した。
- ・探索では、マップや図鑑を手にしながら公園内を歩き「この葉っぱと同じ形かな？」「木の皮がざらざらしている」「こっちはつるつるしている」等、実際に見たり触れたりしながら木の特徴を確かめる姿が見られた。
- ・友達同士で図鑑と見比べたり「ここにも同じ木がある」「同じに見えるけど葉っぱの形が少し違う」等気づいたことを伝え合いながら、自分たちなりに木の種類を見つけたり分類する姿へとつながった。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動後の振り返りでは、「同じ公園でもいろいろな木があった」「葉っぱの形や大きさ、色が違った」「木の皮もざらざらしているものやつるつるしているものもあった」「匂いも少し違った」等、木ごとの違いに気づく声が聞かれた。
- ・普段何気なく遊んでいる公園にも様々な自然があることに気づき、身近な環境への関心や探究心がより深まった。図鑑やマップを活用することで、自分で見つける楽しさや友達と共有する面白さを感じることができ、自然物を観察し比較する力にも繋がっていった。



活動②葉っぱや木を観察しよう ～5歳児～

●問いを考える

・公園で様々な種類の木や葉に触れる中で見た目ではわかりにくい細かな部分にも興味を持つ姿が見られた。そこで「葉っぱや木をもっと近くで見たら、どんな発見があるのだろう」「普段見えていないところにどんな形や模様があるのだろう」という問いをもとに活動する。

●環境をデザインする

- ・マイクロスコープ
- ・記録したものを出力するためのUSB
- ・葉
- ・花
- ・その他子どもたちが気になった素材



●探究活動を実践する

・公園で見つけた葉っぱや木の枝、木くず、花などを持ち帰り、マイクロスコープを使って細かな部分を観察した。
 ・子どもたちは、葉っぱに模様があることや表面の凸凹、枝の断面、木くずの模様、花の模様等画面に映し出しながら「線がたくさんあるね」「木の中に丸い模様が見えるよ」「小さな毛みな異なるものもある」等肉眼では気づかなかった発見を楽しんでいた。
 ・気になった部分は写真に残し、印刷したものを比べてみることで「同じ葉っぱでも模様が違う」「こっちの木には穴みたいなのもあるよ」と特徴や違いを友達と共有しながら観察を深める姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・「小さくて見えないものも大きくするとよく見えた」「葉っぱの中にたくさん線があった」「模様みたいにもみえた」「気にもいろいろな模様があった」など、新しい発見に驚きや喜びを感じる声が聞かれた。
 ・普段何気なく振れている自然物にも細かな特徴や違いがあることに気づき、より深く観察しようとする姿に繋がった。また、写真を比べたり友達と発見を伝え合ったりする中で、自分の気づきを言葉にしたり、違いを比較する力も育まれていった。
 ・自然物の観察だけでなく身近にあるものをマイクロスコープに写してより細かい部分を観察してみたいという探究心が広がっていったため、子どもたちの発信を見逃さずそれを環境の一部として取り入れていくことの必要性を改めて実感した。



活動③木に触れて遊んでみよう～木っ端材工作・かな節プール～ ～5歳児～

●問いを考える

・公園での木や葉の観察や、マイクロスコープでの細かな特徴を調べていく中で、見た目だけでなく匂いや手触りにも興味を持つ姿が見られた。そこで、「木にはどんな匂いがあるのだろう」「触るとどんな感じがするのだろう」「木の形からどんなものを作ることができるのだろう」という問いをもち、木を五感で感じながら素材の特徴を楽しむ活動につなげる。

●環境をデザインする

- ・多摩産材のスギの木っ端材
- ・東京森と市庭(林業を行っている)の方を園に呼び交流や疑問を質問できる環境をつくる。
- ・かな節
- ・木製プール
- ・グルーガン
- ・油性ペン



●探究活動を実践する

・東京都多摩産材のスギのかな節を用いた『かな節プール』を準備し、実際に手で触れたり、匂いを嗅いだりしながら木の感触や香りを楽しんだ。
 ・子どもたちは「ふわふわしている」「いい匂いがする」「長いものもある」「くるくるしていて面白い」「木の模様も見えてるね」等、かな節の形や質感、香りに気づきながら全身で素材に親しむ姿が見られた。
 ・様々な形や大きさ、木目や模様の異なる木端材に触れながら「これは車みたい」「これとこれをあわせたらうちの形に見えるよ」「動物が作れそう」など、自分なりのイメージを膨らませ、組み合わせたり並べたりしながら思い思いの作品作りを楽しんだ。素材の特徴を見つけながら、友達とアイデアを共有したり新たな表現を試したりする姿も見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・「木の香りが良い匂いだった」「木はかたいのにプールの中の木はふわふわだった」「形を見て何を作るか考えるのが楽しかった」など、木の素材がもつ様々な特徴に気づく声が聞かれた。
 ・木は『見るもの』だけでなく『嗅ぐ・触る・つくる』など、五感を通して楽しめる素材であることを体感し、自然物への親しみや興味がさらに深まった。
 また、素材の形や模様からイメージを広げ、自分なりに表現する楽しさを味わうことで、発想力や表現力の広がりにもつながっていった。
 ・木でできた楽器(マキンバやカスタネット)をもってきてくださり触れる経験をしたことで、木でできたものや玩具への興味関心も広がった。



活動④木でできたおもちゃで遊ぼう ～5歳児～

●問いを考える

・これまで木の種類を調べたり観察したり、匂いや感触を楽しむ活動を通して、木という素材への親しみや興味を深めてきた。「これも木でできているおもちゃだね」という声をきっかけに、木が身近な生活の中でどのように使われているのかに関心を持つ姿が見られた。そこで、『木でできたおもちゃにはどんなものがあるのだろう』『木のおもちゃで遊ぶとどんなことを感じるのだろう』という問いをもとに活動を進める。

●環境をデザインする

- ・事前に東京おもちゃ美術館を知り、どんなおもちゃがあるかを知る。
- ・東京おもちゃ美術館を訪問し、実際に木でできた玩具に触れた。
- ・事前に職員が下見に訪問。
- ・当日は電車にて向かう。



●探究活動を実践する

- ・東京おもちゃ美術館を訪れ、様々な木でつくられたおもちゃに実際に触れながら遊ぶ機会を設けた。
- ・子どもたちは、木の積み木やパズル転がすおもちゃ、こま、木の丸い卵のプールに興味を持ち、「いい音がする」「つるつるしている」「木の匂いがする」「模様がある」など、素材の特徴を感じながら遊びを楽しんでいた。
- ・形や重さ、木目の違いに気づきながら試行錯誤して組み立てたり、気づいたことや面白いと感じたことを友達に伝え合って一緒に遊びを進める姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動後の振り返りでは「木のおもちゃはなんだか温かいかんじがした」「木と木がぶつかった音は優しい音がした」「いろいろな木でできたおもちゃがあって面白かった」など、木ならではの質感や音、ぬくもりに気づく弧rが聞かれた。
- ・木は自然の中にあるだけでなく、遊びや暮らしの中でも身近な素材として使われていることを知り、木への興味や親しみがさらに深まった。また、木のおもちゃを通して友達と関わりながら遊びを広げる中で、発想力や協同性、試行錯誤する力も育まれていった。



活動⑤東京の木をつかって看板を作ろう ～5歳児～

●問いを考える

・一年間を通して様々な経験のなかで木という素材への興味や親しみを深めてきた。そのような経験を重ねる中で「木を使って何か自分たちも作れないかな?」「みんなで過ごした保育園に思い出に残るものをつくりたい」「木の良さを形にできるかな」という思いが芽生え、「木を使って園に残るものを作るとしたらどんなものができるだろう」「木の特徴を活かして作るにはどうしたらいいだろう」という問いをもとに活動する。

●環境をデザインする

- ・多摩産材のヒノキの木っ端材
- ・自然由来の塗料
- ・刷毛
- ・土台のヒノキの板
- ・強力ボンド
- ・東京森と市庭の方にアイデアをいただきながら活動を進める。



●探究活動を実践する

- ・卒園制作として、東京都の多摩産材であるヒノキの木端材を使い、園の看板づくりに取り組んだ。
- ・子どもたちは木っ端材に触れながら、前回のヒノキとの触り心地の違いや匂いの違いを感じながら「いい匂い」「色が違うね」「線も違う」とこれまで活動で親しんできた木の特徴をや種類による違いを発見し伝え合う姿が見られた。
- ・看板づくりでは、園の名前の文字の形を意識しながら木端材を並べたり組み合わせたりして、文字を作り友達と相談をしながら配置やバランスを考えていった。さらに自然由来の塗料を使って一人ずつ好きな色を担当し色付けを行いった。
- ・完成に向けて試行錯誤を重ね、一人一人が役割をもちそれぞれの思いやアイデアを取り入れた看板づくりに取り組む姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動後遠くから看板を見て「保育園の名前に見えるね」「素敵な看板になったね」「みんなに見せるの楽しみだね」「内緒にしておこう」など、自分たちの経験や思いが形になった喜びと自分たちの力で完成させたという達成感を感じる姿が見られた。
- ・一年間を通して親しんできた木という自然素材を自分たちで形のある作品へとつなげることで、木や自然への親しみが深まった。また、友達と目的を共有しながら協力して一つの作品を作り上げる中で、試行錯誤する力や表現する力、仲間とともに達成する喜びも育まれていった。

